

F-2 明治以降における家政に関する教育の発達について（次1報—6）
東京家政学院大家政 手塚六郎 中村ヨシ 龜高京子 ○熊田知恵
板谷麗子 三東純子

目的 今回は、前報と同じく明治初年から18年を次1期とした。この期間に初版の発行された家政書について、その影響力や、内容への社会状勢の及ぼすなどを知ることにより、前報までの考察の裏付けとする。

方法 前記の家政書の中から、各初版本と再増版本とを、可能の限り閲覧し、それそれの造本・印刷・出版などの形態および内容について比較検討した。

結果 これらの書物には、数年間にわたって重版されたものが多く、重版にともない、発行所・出版人が変更されたり、社会背景とあいまって形態の進歩したものもある。また、なかには、法令によってやむを之本内容を改正されたものもある。一般の文化への貢献や交通の便の向上などが、版を重ねるにつれて売捌書肆数の増加や、その地域の拡大となって現われている。

以上のようにまとめから、ここにとり上げた家政書の多くは、広く用いられたものといつても過言ではなかろう。普及した家政書は、家政に関する教育および家庭生活の向上に貢献したと考えられる。よって、これまでにとりあげた家政書は概ね適切であったと思われる。